

平成 24 年度 技術職員研修にあたって

技術支援センター長 武藤 睦治

近年は社会の求める技術が高度化・複雑化したことに伴い学際領域の研究が増える傾向にあります。そのため研究者のみならず技術者もこれまでに身に着けた特定分野の知識・技術だけでなく、新たに幅広い他分野の知識をも持つことが必要不可欠となりつつあります。

技術職員組織が昨年 11 月に技術支援センターとして新たに発足し、今後さらに充実した教育・研究支援が期待されています。また学科の新設や研究領域の広がり等によりこれまで以上に技術支援を必要とする範囲も拡大していくものと考えられます。しかしながら今日の社会情勢では技術支援センターの人員を増やすことは容易なことではなく、限られた人員で充実した支援を行っていくためには各人のスキルアップを図ることが重要です。さらに研究領域の変化に伴い技術支援が必要な分野も変わっていくことが考えられ、その変化に対応できる能力を身に着けることも求められています。そのため、技術職員自ら研鑽を積むことが益々必要となっています。

近年、遺伝子操作技術は生物機能を解明するうえで欠くことのできない技術となっています。本研修会においては細胞から遺伝子を取り出し解析するという現代の生物研究を行う上での最も基礎となる技術についての知見を得ることを目的としているとのことです。

異分野の研究者・技術者にとっても生物機能解明の基礎知識を取得することは幅広い領域・複雑化する研究・教育環境に対応することに有効であると考えられます。本研修会で得られた知見が今後の技術支援に生かされることを期待します。